



入場の様子



今年は抽選会をしました。何が当たるかな？

天間梅まつり

文化祭

天間梅まつりと文化祭は、例年別々に開催していた事業でしたが、事業見直しにより今年度は統合し、三年ぶりに天間まちづくりセンターで実施しました。準備にあたり、コロナ感染状況が懸念されていましたが、行動制限が発令されない限りは開催をしたいと実行委員会が決議をしまし



会場の梅もきれいに咲きました



大福同好会

当日は雨天となりましたので、屋外演芸は中止にしましたが、会場では地区の皆様による模擬店の出店、多目的ホールでは、天間幼稚園・てんま保育園・富士わかば保育園・

た。会場内の徹底した感染予防対策により開催にこぎつけ



特別賞 当たったよ！

ネットワーク天間



編集発行
天間地区まちづくり協議会
天間地区の人口
男 3,179人
女 3,317人
計 6,496人
(2,891世帯)
令和5年1月1日現在



でんまんじゅう販売

梅まつり文化祭実行委員会
実行委員長 山崎 篤

天間小学校・地区住民の皆様による、力作揃いの作品展示で見学者の皆様を楽しませていました。雨天にもかかわらず、約千二百名の方にご来場いただきました。スタッフをはじめ多くの皆様に協力して頂きました。厚く御礼申し上げます。来年度もご支援を頂けます様、宜しくお願い申し上げます。



健康推進員 健康ブース

三年ぶりに 湧く展示会

梅の花が咲き誇り、賑わいが戻った梅の里天間に春を呼ぶ梅まつりが装いを変え盛大に行われました。この祭りのサブイベントとして、今年度から文化祭を併合し、多くの住民の作品や小学校、幼稚園や保育園の子どもたちの力作を一堂に展示した会場を設けました。生憎の天候不良にも



かかわらず630人が来場し、天間の文化教養の関心の高さを垣間見ることができました。訪れた方々からは高い評価をいただき、特に富士市長からは、「子どもたちの創意工夫した力作は他の模範となる」との高い評価をいただきました。今回の展示会が将来の天間地区を支える大きなエネルギーとなることを願うとともに、コロナウィルス感染症によるまちづくり活動停滞という長いトンネルから、ウィズコロナへと舵を切るきっかけとな

れば嬉しく思います。
梅まつり文化祭実行委員会
文化祭展示担当 酒井 重利

鷹岡中学校 生徒会活動について

鷹岡中は、活発に生徒会活動が行われている、個性や魅力のあふれる学校です。その中でも、この学校の特に素敵なところを、皆さんに紹介しようと思います。鷹岡中では、生徒会が中心となり、より良い授業環境を目指して、Life Upキャンペーンを行っています。このキャンペーンでは、学年の垣根を超え、縦割りで協力しながら、学習に対する意識を高めていくことができます。また、秋に行われる運動会では、生徒会が考えた鷹岡中独自の競技も行い、とても白熱した行事になります。そして、校舎の屋上に天



文台があるのも、この学校の魅力の一つです。ここで開かれる天文教室では、たくさん星や星座について学ぶことができます。天文台は、本校のシンボルとして愛されています。このように鷹岡中は、様々な活動を行い、明るい生徒たちが集まる素敵な学校です。これを読んで、少しでも皆さんが、鷹岡中に興味を持っていただけるとうれしいです。
鷹岡中学校
2年 佐々木 祐奈

富士市公式LINE

友だち募集中

←二次元コードを読み込んで友だち登録
友だち登録で暮らしの情報や
お得なクーポンをゲット！

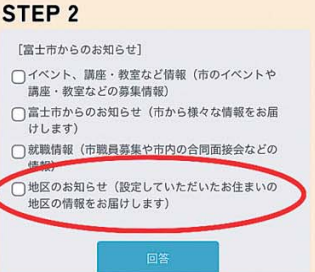
ID:@848ilers

受信設定で 天間地区の情報



「受信設定」を押す

登録をお願いします！ を受け取れます！



「地区のお知らせ」にチェック
回答ボタンを押し、送信

さらに！ 天間地区の情報がいつでも見られます！



文字の入力画面を表示させて、
「天間地区」と入力し送信



見たい情報を押す

まちづくり協議会組織の 見直しについて

少子高齢化・人口の減少・小家族化・ライフスタイルの多様化・働く環境など私たちを取り巻く環境が変化しています。将来を見据えた地域コミュニティを形成するため、令和5年度からはまちづくり協議会組織を5つの部会と直轄事業、実行委員会で構成し直します（組織図参照）。

令和4年度をもって校区子ども会や健康推進員は解散となります。令和5年度からは天間地区の子どもに関する事業を実施する「子ども育成部」を新設し、地区全体で子どもの成長を見守っていきます。

みんなで創る安心社会 天間くらし支え合いセンターの 発足に向けて

最近、超高齢社会、人口減少、核家族化、これに伴う地域の絆の希薄化など地域社会についての話題が目立ちますが、私たちに天間という素晴らしい地域があり、心強い仲間がいます。住み慣れた天間でいつまでも安心して暮らし続けていくために、私たちはこの天間の仲間のパワーをつないでいきたい、そのようないきから「天間くらし支え合いセンター」を創りたいと考えています。医療や介護が必要になっても出来る限り在宅で暮らし続けられるよう、身の回りのちょっとした困り事を地域のみんなで支え合うそんな仕組みを創りたいのです。そして、「他人事」ではな

また、天間地区住民の健康づくりや文化教養を深める事業を実施する「健康文化部」を新設します。さらに、これからのまちづくりの課題となる福祉の充実が必要不可欠になると予想されることから「天間くらし支え合いセンター」を新たに立ち上げ、日常生活支援体制を構築していきます。今後、事業の見直しやデジタル化の推進などにより住民や協議会役員の負担軽減に努めていながら、団結力をもつて運営していきます。皆様のご協力無くして地域コミュニティは成り立ちませんので、どうぞ宜しくお願いします。

天間地区まちづくり協議会
会長 植松 譲

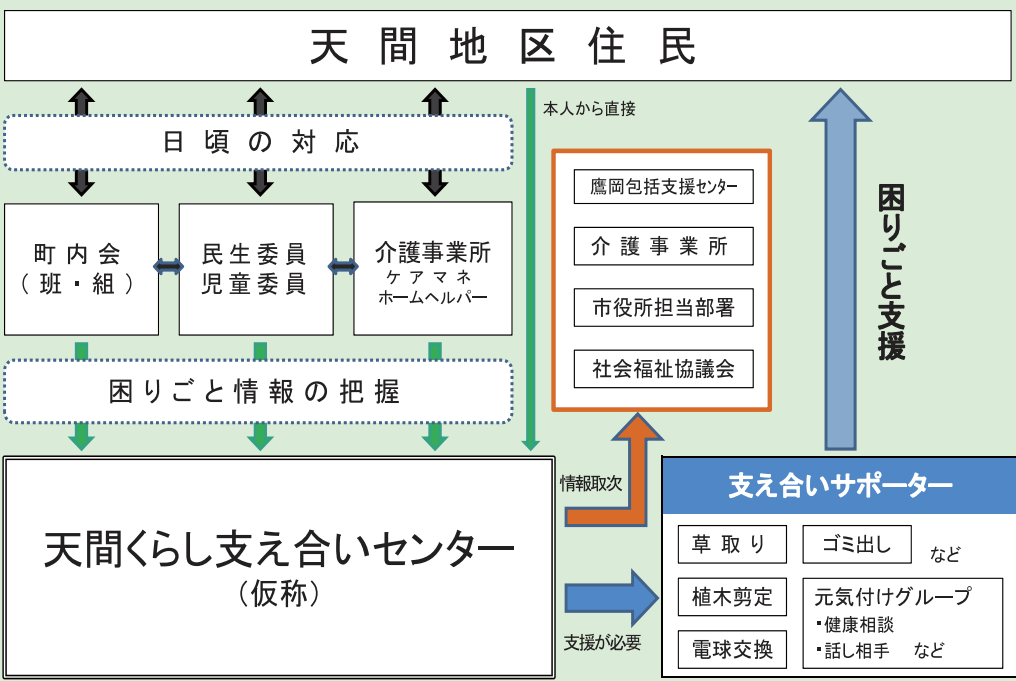
く「自分事」と考え、みんなで「安心社会天間」を創るために、これからのこのような仕組みについて情報発信を続けていきたいと思っています。

天間地区福祉推進会
会長 望月 廣一



天間地区生活支援体制のイメージ

～日頃のちょっとした困りごとを地域のみんなで支え合う仕組みづくり～



地域の皆様に長く支えて頂きました「天間校区子ども会」は、令和5年3月31日をもちまして解散させて頂く事になりました。私自身、5年前に天間に移り住み、役員をやるのは初めての経験でした。会長として至らない点もありましたが、皆様に支えられどうにか務めることが出来ました。子ども会活動をきっかけにたくさん子どもたちと接したり、今まで話した事のない保護者の方や地域の皆様との会話が、とても良い経験になりました。長年続けてきた、そして皆様にとっても思い出がたくさんつまった子ども会の活動が途絶えてしまう事は大変心苦しく思います。

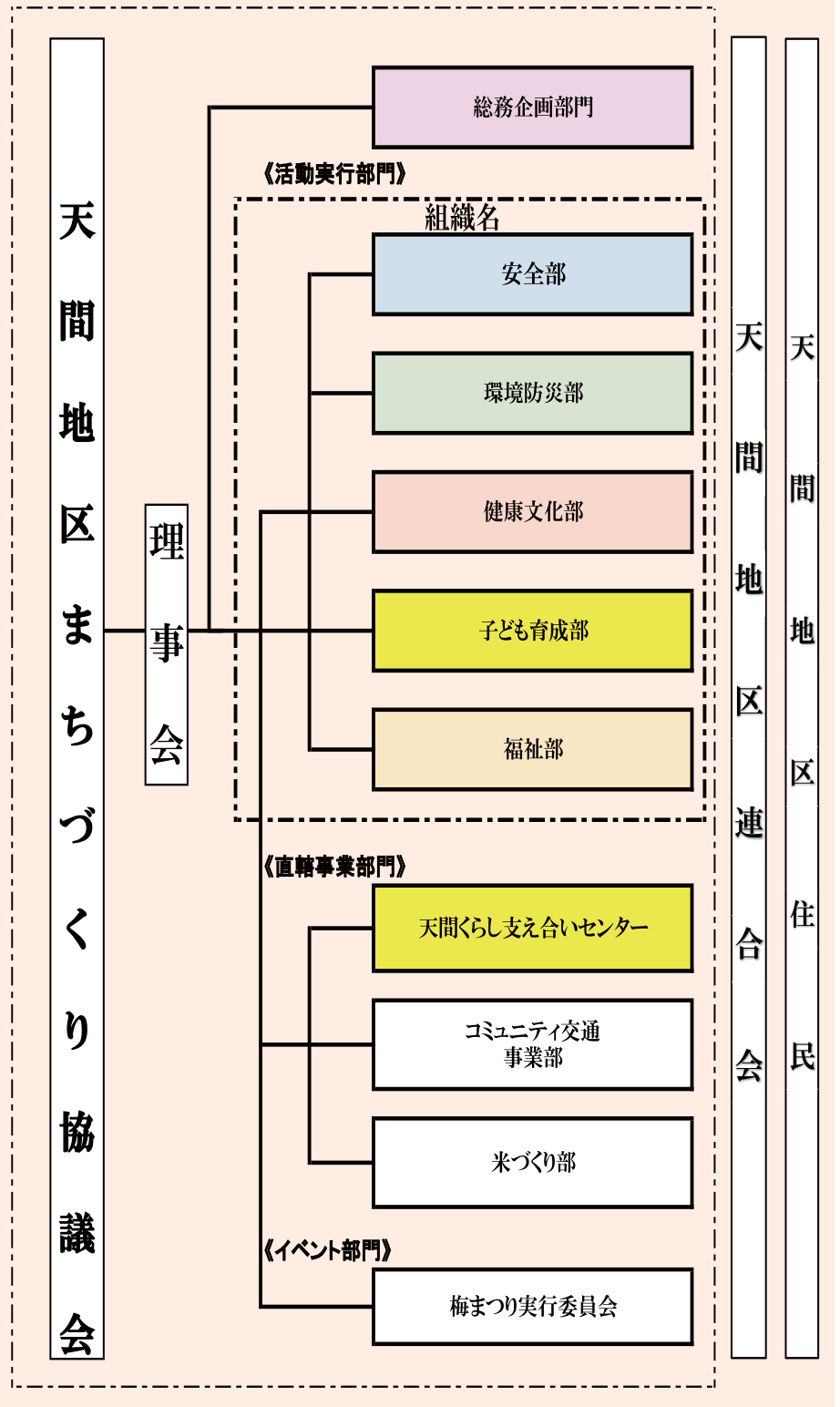
校区子ども会からの ご挨拶



令和5年度からまちづくり協議会に新設される「子ども育成部」に活動が続けて頂ければと思いますので、どうぞ宜しくお願いします。そしてこれからも、地域の子どもたちを温かく見守って頂ければ幸いです。

校区子ども会
会長 西村 智美

天間地区まちづくり協議会 組織図



編集後記

地域の皆さんが取り組んでおられる様々な活動を積極的に発信し続けることで、皆さんに興味・関心を持っていただければと思います。できる方ができる範囲で支えあう事で、地域コミュニティを明るく楽しく支える環境が整っていかばと思います。

編集長 高橋 由紀

